

平成25年度第1回中津川市環境保全審議会議事録

日 時 平成25年12月25日（水）13時30分～15時
場 所 市役所4階大会議室
出席委員 浅野純二委員、井口宗久委員、栗谷本征二委員、瀬瀬登美子委員、嶋崎尚巳委員、富田進委員、増倉成径委員、森雅宏委員、良雪正隆委員
事務局 曾我和幸生活環境部長、吉村靖和環境政策課長、草野順樹環境政策係長、鈴木唯仁主査、青山雅信リニア対策課長
説明者 東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部環境保全事務所竹下俊輔所長 他

1. 開会

～吉村環境政策課長より開会の宣言～

2. 市長あいさつ

～青山市長 あいさつ～

3. 会長、副会長の選出

事務局提案 会長 富田進委員 副会長 良雪正隆委員

～異議なし～

4. 会長あいさつ

(富田会長)

- ・昨年度まで中京学院大学特任教授として、地球環境と生物進化、自然と生態系の分野の研究と地学生物学的な内容を教授してきました。中津川市の皆様の生活のために環境を保全していくという使命を持って、この会議の会長を務めさせていただきます。

5. 議 題

中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書に対する市民意見（案）について

(吉村環境政策課長)

- ・只今より議題に入ります。なお議長につきましては、中津川市付属機関の設置等に関する条例施行規則第4条により、会長が議長となるということがございますので、富田会長よろしくお願い致します。

(富田会長)

- ・中央新幹線（東京都名古屋市間）環境影響評価準備書に対する市長意見について、事務

局からご説明をお願い致します。

(吉村環境政策課長)

- ・市長より会長に諮問書をお渡しします。

(青山市長)

- ・環境影響評価法第20条第2項により、岐阜県知事より、準備書の内容について、環境の保全の見地から求められた意見案について審議会の意見を求めます。よろしくお願いたします。

(吉村環境政策課長)

- ・市長は次の公務のため、ここで退席をさせていただきます。

～青山市長退席～

(富田会長)

- ・それでは、中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書の概要説明をお願いします。

(吉村環境政策課長)

- ・中央新幹線環境影響評価準備書の概要説明につきまして、本事業の事業者であるJR東海にお願いしています。

(竹下所長)

- ・JR東海の竹下と申します。「環境影響評価準備書のあらまし」の中津川市分につきまして、パワーポイント、スライドを用いましてご説明させていただきます。

—スライド説明（省略）—

(竹下所長)

- ・現在も当社のホームページに準備書は掲載されております。縦覧期間中に説明会を中津川市内では5回開催し、延べ約650名のご参加を頂いています。また、11月5日まで意見の募集をいたしまして、5559通の意見がございました。

- ・このご意見に対して事業者の見解を11月25日にお示ししております。
- ・今後、市、県等で環境審査会等が開催されまして、岐阜県知事からのご意見を3月25日までにいただくことになっています。その後環境影響評価手続きは評価書作成となり、国土交通大臣、環境大臣に示してそれから必要な修正を行い、終了するものです。

(富田会長)

- ・只今の概要説明につきまして、ご意見、ご質問ございましたらお願いします。

(良雪委員)

- ・駅の高さが20～30mですが、日照障害の問題として影響してくると思うのですが、もう少し具体的に教えていただきたい。

(竹下所長)

- ・駅の高さ20～30mというのは、地表面の高さが凸凹していることがありますので、その関係で20～30mと記載をさせていただいた。ご指摘がありましたように、日照

は変わってくることはあると思います。部分的に回送線が3階部分にございますが、2階部分から3階部分に上がってくるというものですので、ずっと同じ高さのものが1.3キロできるということではありませんが、ほぼこの位のものができるということは、この段階で想定していただきたいということです。

(瀬藤委員)

- ・磁界についてあまりイメージがないのですが、どのような事象でしょうか。問題ないと思いますが、場合によってはどのような問題が想定されるのでしょうか、詳しくご説明願いたい。

(竹下所長)

- ・磁界がどこから発生するのかといいますと、車体についている超伝導磁石というものがありますが、この超伝導磁石と地上側の浮上案内コイル、推進コイルとの間で吸着と反発し、リニアは浮いたり前に進んだりというシステムです。
- ・超伝導磁石から出るのが磁界で、この磁界が程度問題であれば、「ピップエレキバン」みたいなもので、人体の方に電流が流れるということで肩こりが治るということをおっしゃっているのですが、そのように人体に影響を与えることがあるということです。
- ・国際的なガイドライン（ICNIRP）で健康への影響がある値を設定しています。それがあらしの11ページのグラフの赤いラインですが、これは磁界による健康への影響があるものから5から10倍とかなり大きめの値で設定しており、それ以下では健康への影響はないものでございます。国でもICNIRPのガイドラインに従うということが定められており、山梨のリニア実験線とこの中央新幹線含めてこのガイドラインの下になるようなものを作っています。
- ・車体に超伝導磁石がついており、一番近いところではお乗りいただく方ということになりますが、車体それから車体の内側と磁気シールドでガイドライン以下となるよう設定しております。12月5日に山梨のリニア実験線で磁界の公開測定を行い、測定結果等につきましては準備書と同じような値、もしくは下回るような値でした。
- ・磁界は確かに目に見えないので、非常に不安に思われるということです。あたかもリニアが皆様の健康を害するものと喧伝される方もいらっしゃいますが、鉄道事業者が、安全が担保できない物を作るというのは自らの首を絞める話でありますので、安心いただける物を作るということです。

(栗谷本委員)

- ・説明の中で、「影響が小さい、できるかぎり回避する」など、どのように解釈してもいいような文言が非常に多いのですが、数字やきっちりとした文言で表記されると、市民としては安心安全が担保でき、評価に繋がると思うのですができないですか。

(竹下所長)

- ・通常環境アセスメントの環境影響評価で使われている用語ですが、特に如何様にでもとれるような表現をしているといった趣旨は全くございません。当然地元の皆さまに安

心して、事業にご理解、ご協力いただきたいという思いがあります。まだ実際工事の計画が細かく定められていない状況で予測を行っており、そういった点から影響が大きく出るようなかたちで環境影響評価を行っています。実際には、これより小さいかたちになるであろうという思いで作っているものです。

(森委員)

- ・環境影響評価結果の数値としては基準値と比べると適合ということになっているのですが、今現在の生活環境中の数値と比べると大きく離れるのでしょうか。

(竹下所長)

- ・環境影響評価を行うにあたって予測、調査を行います。どれぐらいの割合で、または基準値と適合するかで評価を行っています。例えば静かなところがうるさくなるのではないかと、そういうこともありますけれども、民家が多いところでは出来る限り騒音を抑えるような防音・防災フードの保全措置を行い、その上で評価を行うものです。

(増倉委員)

- ・学校の代表ということでお伺いしたい。駅の大きさはかなり大きなものですが、毎日通学する所にできるわけです。その点の配慮はいただけているのか、教えていただきたい。

(竹下所長)

- ・岐阜県駅の近くに坂本小学校や幼稚園があります。駅や路線の工事で通学路を使用することがあると思います。具体的にどこの道路を工事用車両が通るかは工事計画が詰った段階で市と協議させていただきたいと考えておりますが、交通安全は非常に大切に考えております。ダンプにリニア工事の車両であることを表示させて運転する者も周りの目を意識させたり、横断する所には誘導員を置くなど、交通安全対策として山梨のリニア実験線でも行っており、地元からもよくやっているという評価をいただいています。中央新幹線の工事においても同様に行っていきたい。

(井口委員)

- ・非常口というのが、確か 5 キロおきにできるということですが、山岳部の非常口は本線から通路が上に登っていくのではなく、横に行って外に出るのが全てのパターンですか。

(竹下所長)

- ・非常時等万一トンネル内で止まってしまった場合にこちらから避難していただく、そういう意味で非常口と言っています。5 キロごとにとというのは大都市部のほうで立坑の間隔がおおむね 5 キロということですが、岐阜県内の山岳部での間隔は 5 キロよりも長い間隔となっています。
- ・5 ページの右下のところですが、通常トンネルは下にあって、その本線トンネルから非常口に向かって斜坑という形で登るような位置関係にあります。真横にある横坑は非常にレアなケースです。通常は下に向かって掘っていくかたちで、場所によっては上に向かって掘っていくものです。

(富田会長)

- ・他にご意見ご質問ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(吉村環境政策課長)

- ・JR 東海におかれましては、ここで退場いただきます。

～説明者退場～

(富田会長)

- ・次の中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書に対する市長意見(案)の説明をお願いします。

(草野環境政策係長)

- ・環境政策課の草野と申します。中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書に対する市長意見（案）について読み上げて説明します。

－「中央新幹線環境影響評価準備書に対する市長意見(案)」説明－

- ・意見案についてご質問等ございましたらこの場でお伺いさせていただきます。また、本一旦持ち帰っていただき、1月10日までに事務局にこれについての意見を頂き、その内容をまとめ、第2回審議会の議題にさせていただきたいと思えます。

(富田会長)

- ・ご質問ご意見ございましたらどうぞ。

(栗谷本委員)

- ・山口には阿寺断層があり、断層崩壊でリニアのトンネルに水が流入して、木曾川に大量の水が流れ込むというようなことに関してと、非常口を緑で覆うということですが、それを外来種ではなく地元の植物で覆うということが中津川市の特徴になると思えます。

(草野環境政策係長)

- ・ありがとうございます。安全性については、その他の2番で、「開業後に想定外の環境への影響及び安全性に対する問題が現出しないよう慎重な計画設計を行うこと」に、今ご指摘いただいた内容が見えるようなかたちで検討したいと思えます。

(富田会長)

- ・他にございませんでしょうか。それでは、その他に移りたいと思えます。

(草野環境政策係長)

- ・次回、第2回目の開催について、日時は平成26年1月15日水曜日午前10時から、会場は健康福祉会館3階第一研修室です。議題につきましては、中央新幹線（東京都名古屋市間）の環境影響評価準備書に対する市長意見(案)についてです。

- ・封筒の中に入れてさせていただいております意見案についての意見を、1月10日までにファックスまたは郵送等で頂きますようよろしくお願い致します。以上でございます。

(富田会長)

- ・議題については以上です。閉会とさせていただきます。

(吉村環境政策課長)

～開会の宣言～

(終了 15:00)